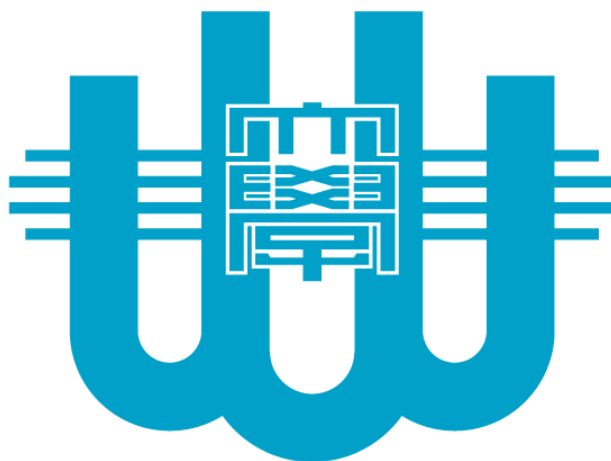


令和 6（2024）年度東京純心大学自己点検・評価に関する
第三者委員会報告書



令和 7（2025）年 6 月

東京純心大学

はじめに

令和 6(2024)年度の「東京純心大学自己点検評価書」に関する第三者評価結果を取り纏めた。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により令和 2 (2020) 年度から 2 年間、書面での開催となっていたが、今年度も従来どおり対面での開催となった。外部委員の先生方には、ご多忙にもかかわらず資料にお目通しいただき、また貴重なご意見等を頂戴し、心より感謝申し上げます。それらの一つひとつを大学機関別認証評価と同様にしっかりと受け止め、本学の内部質保証を充実させたい。

本学は、平成 30 (2018) 年度から認証評価機関の一つである公益財団法人日本高等教育評価機構による機関別認証評価とは別に、外部有識者 3 人（今年度は大学研究者、大学職員）からなる第三者委員による独自の外部評価を導入して 8 回目の委員会開催となった。

これは、大学全体における自己点検・評価の客観性及び妥当性を担保するとともに、諸活動を改善・改革し、内部質保証を充実させる取組みの一つである。また、近年の大学を取り巻く環境の変化への対応は、自学のみでは困難で、見識ある外部有識者からの意見を頂戴し、将来に向けて柔軟な舵取りをしてゆく際の糧としたい。

2025 年 3 月

東京純心大学 自己点検・評価委員会
委員長 増田 光

I. 令和 6（2024）年度第三者委員会委員

大澤忠廣委員（ヤマザキ動物看護大学事務局長）

奥村高明委員（元日本体育大学児童スポーツ教育学部教授）

佐藤晴雄委員（帝京大学教育学部長）

II. 第三者委員会実施概要

実施日時：2025 年 2 月 22 日（土）14：00～16：00

会 場：東京純心大学 第一会議室

当日スケジュール

時間	項目	概要
14：00～14：05	開会挨拶	理事長、学長
14：05～14：10	委員紹介	
14：10～14：25	基準 1：本学の使命・目的等	質疑応答
14：25～14：40	基準 2：学生	質疑応答
14：40～14：55	基準 3：教育課程	質疑応答
14：55～15：10	基準 4：教員・職員	質疑応答
15：10～15：25	基準 5：経営・管理と財務	質疑応答
15：25～15：40	基準 6：内部質保証	質疑応答
15：40～15：50	独自基準	質疑応答
15：50～16：00	委員による総評	
16：00	閉会挨拶	副学長

II. 第三者委員による評価

（1）質疑・参考意見等

基準【1】本学の使命・目的等

【質問】

・現代文化学部がなくなり看護学部だけになったとき、これまでの取組みはどうなるのか。廃止するのか、あるいは科目の中で継続していくのか。

【回答】

・現代文化学部がこれまでに行ってきたもの、特に「純心こどもの国のクリスマス」は、昨年度までは現代文化学部の学生を中心に行っていたが、今年度（昨年 12 月）は看護学部の学生も一緒に企画、運営に加わった。

・次年度は看護学部の学生がリーダーを務め、現代文化学部の学生とともにやっていく予定である。

【質問】

・「東京純心大学運営組織図」には、各委員会と教授会があり、その前に大学運営協議会がある。そして、副学長、学長とつながっているが、「学長」が「教授会」に直結するという構想はなかったのか。

・「大学運営協議会」で決まったことをもう一度、「教授会」に諮ることになるが、簡略化してスピーディーになる方法はなかったのか。

【回答】

・「大学運営協議会」が「教授会」に直結しているということではない。代議員会的な位置付けで考えている。

基準【2】 学生の受入**【質問】**

・アドミッション・ポリシーに関して多くの記述があるが、受験の際にどのくらい活用されているか、有益な手段になっているか、教えていただきたい。

【回答】

・看護学部では、アドミッション・ポリシーについて面接の中で確認するとともに、提出された志願理由書でどう理解して本学を希望しているのかを確認している。あわせて、論理的な説明や表現力を見ている。

【質問】

・IR 委員会の取組みが素晴らしいと思った。学生の確保について、IR では積み重なったデータの分析をどのようにしていくか、訊きたい。

【回答】

・推薦入試や総合型選抜で入学してくる学生が非常に多くなってきている。そのため学力にかなりバラつきが見られる。入学後に基礎学力試験を行い、学生の GPA を追跡している。

- ・試験区分ごとにグループ化して、結果を入試委員会に報告している。
- ・入試委員会、基礎学力支援センター、IR 委員会が三位一体となって学生募集につなげている。
- ・看護師国家試験の可否の予想についても分析している。

【質問】

・看護学部の就職率について、令和 4 年卒業生の 96%から平成 5 年に 86%、6 年に 88%と落ちている。これは看護の就職状況の反映なのか、影響なのか。

【回答】

・看護師国家試験に合格した者に関しては、就職率が 100%である。ただ、不合格者が存在するので、内定はすでに取れていたが、国家試験不合格をもって内定の取り消しということから、結果がそこに反映している。

【質問】

・国家試験の不合格者が少し目立ったというわけであるが、学生の学力が不足していたというこ

とか。

【回答】

- ・全国の平均合格率に比べると、本学はこの数年間、全国平均よりも低くなっている。

【参考意見等】

- ・看護師国家試験合格に向けての指導について、いろいろ工夫を続けてほしい。

【質問】

- ・各奨学金について優秀な学生に対してとあるが、何をもって優秀とされるのか。

【回答】

- ・成績や態度、他の学生に模範となるような学生ということである。

【質問】

- ・入学して、実習が始まると交通費がかかる。病院実習等に対して何か特別な支援があるのか。

【回答】

- ・本大学では聖マリアンナ医科大学病院を中心に実習する。片道 2 時間以上かかる学生においては、寮を借りる仕組みがある。

【参考意見等】

- ・今年度の授業の最終日に本学に来てキャンパスを歩いた。そのとき出会った学生を見て、「社会で活躍するんだろうなあ」と思った。長い東京純心大学の歴史の中で培ったものと思われる。看護学部だけになっても続けてもらいたい。また、地域の方から東京純心大学の学生が評価されていることがわかった。

基準【3】教育課程

【質問】

- ・同一科目を複数の教員が担当している場合があると思う。その際、シラバスは統一したものを使っているかどうか、伺いたい。

【回答】

- ・同一科目を複数の教員が担当していることはない。

【質問】

- ・授業評価アンケートをウェブで実施したところ回収率が低かった。そこで質問紙で行うように変えたところ回収率が上がった。そういう理解でよいのか。

【回答】

- ・その通りである。加えてしっかり回答する時間を確保したことで回収率が上がった。

基準【4】教員・職員

【参考意見等】

- ・FD 活動の中で、特に学生 FD（しゃべり場）がある。これは非常にユニークなものだと思った。ぜひ続けてもらいたい。

【参考意見等】

・訪問したときに図書館に行き、職員の方と話をした。そのとき、「この大学には愛がある。学生に対する愛がある」と思った。「場が人を育てる」、そういう姿を垣間見たような出来事だった。

【質問】

・AI に関して、どのような研修をしているか、教えてほしい。

【回答】

・外部の講師を招いて学生の研修と教員の研修を行った。学生の研修では「生成 AI について」と「活用方法について」、教員の研修では「教育への活用方法」と「まだ教育にどのように活用していくかは課題がある」という話だった。

【参考意見等】

・とりわけ学生には、「論文の引用」や「研究の倫理」について研修していくとよい。

【質問】

・FDSD 研修は定期的にやっているのか。年間に何回くらい行うのか訊きたい。

【回答】

・FD 研修には FDSD 委員会が主催の研修と FD 委員会と他の委員会との共催の研修がある。今年度は合わせて 8 回実施をした。

【質問】

・学生 FD としてユニークな「しゃべり場」についての記載がある。その場で出た意見等はどこに反映されていくのか、訊きたい。

【回答】

・各委員会等で吟味して、改善できるものについては改善をし、掲示板等にて学生に対し回答している。

・「しゃべり場」は本来、学生自身が学校をより良くしていくためにはどうすればよいかを考え、こうしていこうといった意見が学生から出てくることが求められる。今後はそのように変えていく。

【質問】

・「ベストティーチャー賞」は 1 年間の授業の評価でよいか。そうだとすると、同じ人がずっと続くようなことにならないか。また、誰が選ぶのか、そのことについて訊きたい。

【回答】

・対象は常勤の教員で、オムニバスなどで授業を担当する場合は 3 分の 2 以上の授業を担当している科目責任者が対象となる。また、授業評価アンケートで回収率が 60%以上という条件に合い、学生からの評価が良かった教員を「ベストティーチャー賞」として選出をした。

【質問】

・SD 研修は年に何回くらい行っているか。また、職員が外部の研修に参加することもあると思うが、どのように共有しているのか、訊きたい。

【回答】

・教職員合同の FDSO 研修を年に 1 回、職員を対象とした SD 研修を年 1 回実施している。外部の研修に行った際は、月 1 回行われる職員会議の中で報告している。

基準【5】経営・管理と財務

【質問】

・「監事室」というのはあるか。

【回答】

・「監事室」はない。本学園には内部監事の役割を兼ねた企画調査役がいて、監事と連絡を取る仕組みになっている。

【質問】

・監事の方は教員や職員との面接等を行っているか。

【回答】

・定期的に理事長、学長との面接を行っているが、教職員と話す機会はほとんどない。

【参考意見等】

・最終的には、財務状況の改善というところが重要である。それには「学生募集」が大切になってくるが、特色を持った教職員の活用といった視点もある。

基準【6】内部質保証

【質問】

・IR 委員会、IR 課では、どのような資料の提出を求めているか、教えてもらいたい。

【回答】

・成績に関するデータを集めているが、試験問題を集めることはしていない。
・IR を立ち上げて 5 年である。蓄積したデータをもとに、今後、本学の教育について評価していくことになる。

独自基準

【参考意見等】

・最も「純心らしい」というのは、「地域との連携」である。地域に向けて色々なことに取り組んでいるが、特にパイプオルガンの演奏は地域に定着した素晴らしい取り組みだと思っている。

特記事項（「高大連携事業」「基礎学力支援センター」「アドバイザー制度」「助産師リカレント教育」）

【質問】

・「アドバイザー制度」というのは、いわゆるクラス担任か。アドバイザーは 1 人か。例えば助手がつくなど、2 人体制というようなケースはないか。

【回答】

・1人の教員が複数の学生を担当している。学年のアドバイザーの上にアドバイザーリーダーがいる。

【質問】

・昨年も尋ねたが、「基礎学力支援センター」が行っている補習の授業の受講者がふえたかどうか、訊きたい。

【回答】

・出席率が上がるよう様々な対策を行っている。年度当初は100%近い受講生がいたが、最終的には2割程度まで減っている。なぜ出席しないかという理由について、今後聞いて対策を講じたい。

（2）総評

（大澤忠廣委員）

令和6年度 東京純心大学 自己点検評価については、基準1、使命・目的等。基準2、学生。基準3、教育課程。基準4、教員・職員。基準5、経営・管理と財務。基準6、内部質保証において、基準評価項目を満たしていることを認めます。

基準5-4財務基盤と収支については中長期事業計画を策定して学生確保に努め、財務状況の改善を目指したが学納金による収入依存度が大きく、収入の安定をみるに至らなかったことから、新たな中期事業計画でも人件費の是正等を図るなど、積極的な対策を実施する等の改善が見られたことは評価できます。

学生確保は財源基盤の根幹をなすものであり、学生確保に依存するにも限度があり、大学ではIRの導入をされておりますが、教育研究におけるIRの活用と共に、財務分析と中長期計画による学生定員規模の適正を検討して、経営基盤の強化を図ることの検討も必要かと思われます。

その観点から、再度、学部学科の見直し、連携、再編、統合を検討することも必要ではないかと思われます。

大学の地域における評価が高く、今後も、地域のけん引役としての機能強化をはかり、人的資源の提供による連携をはかりさらなる名声の高揚による大学の発展が期待されます。

（奥村高明委員）

「基準1. 使命・目的等」について

キリスト教の精神に基づく使命・目的を、大学及び各学部学科の目的に反映させ、大学の個性と特徴を明確に明文化している。使命・目的及び教育目的は、様々な媒体において明示され、三つのポリシーや中期事業計画等にも反映され、教育研究組織の構成との整合性も保たれている。変化への対応として助産専攻を設置し、看護師、保健師、助産師の三つの資格取得を通して地域に貢献しようとしている点は評価できる。

「基準2. 学生」について

高校への訪問活動、オープンキャンパス、SNSの活用など適切な手立てで学生数確保に取り組

んでいる。また、聖マリアンナ医科大学、昭和薬科大学と連携し、資格取得及び専門的実践力の獲得に臨んでいる。特に募集停止となる現代文化学部こども文化学科を通して培われた地域との関係や建学の精神の実現を「純心こどもの国クリスマス」などの事業を通して看護学部看護学科の学びに引き継ごうとしている点は評価できる。

〈優れた点〉

- 学生の声を拾いあげ、検証する手立てについて、学生アンケートなど単線の手立てで終わるのではなく、学生FD委員による「しゃべり場」などと相互に関連させながら、エビデンスに基づいた改善を行っている。

「基準3. 教育課程」について

カリキュラム・ポリシーに基づいた体系的な教育課程が編成されている。アセスメント・ポリシーをもとに教育課程や科目など異なるレベルで検証し、学習成果や評価、指導改善に活用している。純心の学生に対して地域から温かい評判があることを考慮すると、今後就職先アンケート以外に地域の声を集める仕組みなどが考えられる。

〈優れた点〉

- 教養教育の充実のために「教養教育室」を設置し、「純心教育」を基盤とした「純心読書推進プロジェクト」「純心ハンドベル構想」などを実施していることは建学の精神に基づく事業として高く評価できる。

「基準4. 教員・職員」について

教員と職員の連携が容易で機動力に優れている特性を生かして「ティーチングポートフォリオ」の作成、「生成AI研修会」など常に時代に必要とされている研修を実施している。特に多面的な方法で教員を評価し「東京純心大学ベストティーチャー賞」を設置していることは評価できる。教職協働の観点からは、同様の取り組みで事務職員を評価する仕組みも考えられる。

「基準5. 経営・管理と財務」について

経営の規律と誠実性は満たされており、理事会も使命・目的の達成に向けて機能的に働いている。会計処理について諸規則に基づき適切に処理されている。また中期事業計画に基づいて収支バランスの確保に努めている。

「基準6. 内部質保証」について

IR推進室からIR課への変更については、2015年よりIR活動に取り組み、エビデンスに基づく自己点検・評価が定着した成果と考えられる。毎年第三者委員会の外部委員からの評価を受けているが、評価委員による自発的な実地調査依頼にも対応し、常に開かれた自己点検活動を行っている。

「大学が設定した独自の基準」について

大学設置の意義に立ち返ったカトリック的人類愛に根差した研究と普及活動が行われている点は評価できる。特に令和6年より開始された「助産師リカレント教育プログラム」については、現場を離れた主婦や起業を考える助産師などが参加しており、大学教育との連携も含め今後の発展が期待できる事業として評価できる。

(佐藤晴雄委員)

「基準 1. 使命・目的等」について

現代文化学部の学生募集停止に伴い、今後、同学部の活動が停止されることになるが、これまで取り組んできた地域連携や「あそび文化」に関わる図書館活動など継承が課題視される。そうした一連の活動は、子どもに対する看護活動にも有益であることから、看護学部においても継続させ、運営方法の工夫が期待されるところである。

「基準 2. 学生」について

学生の受入が本学にとっての喫緊の課題であることから、アドミッション・ポリシーに沿う学生をさらに集めるために、キャリア支援の成果なども広く広報していくことが課題になる。現在、看護学部の定員充足率は深刻な問題がある訳ではないが、優秀な学生にとって魅力ある大学運営をさらに工夫し、留年率を 0 に近づけることが期待される。

「基準 3. 教育課程」について

教育課程や教育活動については、小規模大学の特性を活かした少人数指導や授業等の在り方には創意工夫がなされていると評価できる。特に、カリキュラム・ポリシーに沿う教育課程の体系的編成の在り方については高く評価できる。こうした教育課程などの活動をさらに高等学校等にも PR していくことが引き続き求められるであろう。

「基準 4. 教員・職員」について

FD 活動に関して、なかでも「学生 FD(しゃべり場)」は特色ある取組として高く評価できる。学生間の交流を深めるに留まらず、学生目線の大学運営の在り方を模索する取組にもなり、今後もさらに充実させるような工夫を期待したい。その他、教職員体制については、特に課題視すべき点は見出せない。

「基準 5. 経営・管理と財務」について

経営・管理体制については特段問題が見られない。今後の本学の在り方に関しては中期計画の策定も予定され、将来の在り方が理事会をはじめ関係組織で十分検討されている。

「基準 6. 内部質保証」について

内部質保証については、自己点検・評価を従来から着実に実施し、改善に向けた取組が十分になされている。

「基準 A」について

看護学部単独の運営になってからも、地域共創センターなどによる活動を継続・発展させることが課題になるだろう。

以上、本学においては、学生確保や財政運営など課題が明確であることもあり、これまでも教育・研究活動や運営体制などに様々な工夫がなされ、一定の成果を上げていると評価できる。

(3) 総括

本学においては、これまで自己点検・評価を着実に実施し、また第三者委員会活動も的確に

実施してきている。そこで、「総評のまとめ」として、他の委員の意見も踏まえて以下のとおり述べておくことにしたい。

他の委員からは、財政基盤強化のために、「新たな中期事業計画でも人件費の是正等を図るなど、積極的な対策を実施する等の改善が見られたこと」が評価され、また「高校への訪問活動、オープンキャンパス、SNS の活用など適切な手立てで学生数確保に取り組んでいる」との評価もなされ、特に学生確保につながる課題がありつつも、これまでの取組に一定の評価がなされている。

在学生に対しては、学生アンケートの工夫に加えて、「しゃべり場」の活動が高く評価され、「純心読書推進プロジェクト」「純心ハンドベル構想」など建学の精神にかなう取組に対する評価も高い。

大学運営に関しては、「経営の規律と誠実性は満たされており、理事会も使命・目的の達成に向けて機能的に働いている」との評価もなされた。ただ、経営努力を評価した上で、財政基盤強化に向けて、「再度、学部学科の見直し、連携、再編、統合を検討することも必要ではないか」という意見も出されている。看護学部のみになった時を想定して、様々な見直しが求められるということである。

ところで、18 歳人口の減少に伴い、学生確保は本学に限らず多くの大学で課題視され、これに伴い財政確保も課題とされている。本学においては、元々規模が大きいことから、学生確保は切実な重要課題となり、そのために教育課程の充実や運営体制に様々な工夫がなされている。この点に関しては他の委員からも指摘されている通りである。今後、看護学部だけの単科大学として運営されるようになって、現代文化学部が培ってきた地域連携やこども目線の取組みを何らかの形で活かすことによって、魅力ある大学づくりを進めることを期待したいところである。

以上